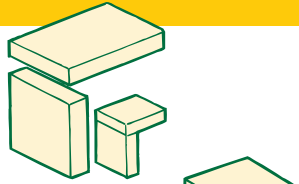


組む 木箱を作るときに用いると丈夫な作りになります。

組み方

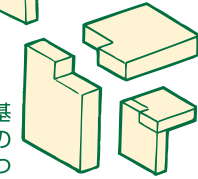
●隅(平)受接ぎ▶

2枚の板の両端を直角にクギや木ネジで接合する組み方で、木工用接着剤を必ずつけますが、強度的には弱い組み方です。



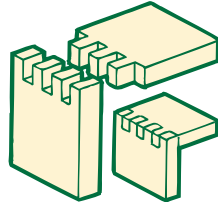
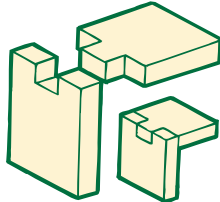
●2枚組み接ぎ▶

組み接ぎの基本形で、板の幅の半分ずつを板厚分だけ切り取り、直角に組み合わせたもので、クギや木ネジで接合します。



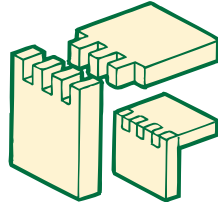
●3枚組み接ぎ▲

板幅を3等分して片方は両端を切り取り、もう一方は中央の部分を切り取って組み合わせるもので、クギや木ネジで接合します。



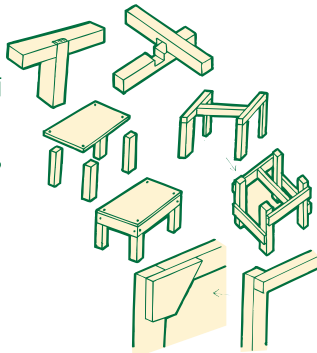
●刻み組み接ぎ(アラレ組み)▲

組み手の数が多い組み接ぎで、数が多いほど強度が増します。



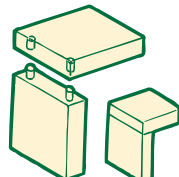
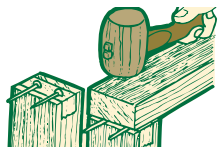
●包打ちつけ接ぎ▲

一方の板の木口を他方の側面に合わせ、その部分を切り取って包むようにした接合方法で、木工用接着剤をつけてクギや木ネジで接合します。



●太ほぞ接ぎ▼

クギや木ネジの代わりにダボ(ホゾ)を使った接合方法で必ず木工用接着剤をつけます。この方法は両端が合うようにあらかじめイラストのようにテープでクギを貼り、板を合わせて木ヅチでたたくと正しい位置に印がつけられるので、うまくいきます。

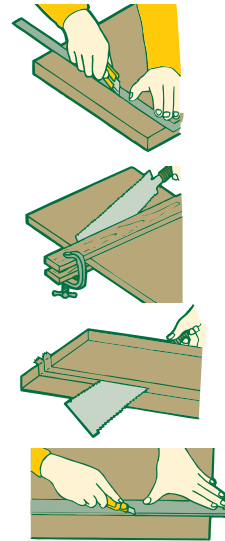


▲構造をしっかりさせる補強方法

ここがポイント!

のこぎりで木をうまく切るテクニック

・カッターであらかじめのこ道をつけておくと、まっすぐに切れます。
・まっすぐな長めの板を2枚用意し、それで切りたい板をはさみ、クランプで止めます。これをガイドにして切っていきます。



●合板(ベニヤ板)をきれいに切る
合板はタテ方向、ヨコ方向共に横引き刃を使い、のこぎりを寝かせ気味にして切ります。裏側がどうしてもささくれやすいので、裏側にセロハンテープを貼っておくときれいに切れます。また3mmぐらいの厚さでしたら、のこぎりより、大きめカッターで切ったほうが楽に、きれいに切れます。この場合は2度ぐらひは軽く引き、3度目ぐらひから力を入れます。

サービスのご案内



配送・宅配便 切り売り商品 修理



返品・交換 表札・額の受注 スーパーキーづくり

●クレジットもご利用になれます。



制作発行 / 株式会社セキチュー 販売促進部
〒370-1201 群馬県高崎市倉賀野町4531-1

TEL.027-345-1111 (大代表)

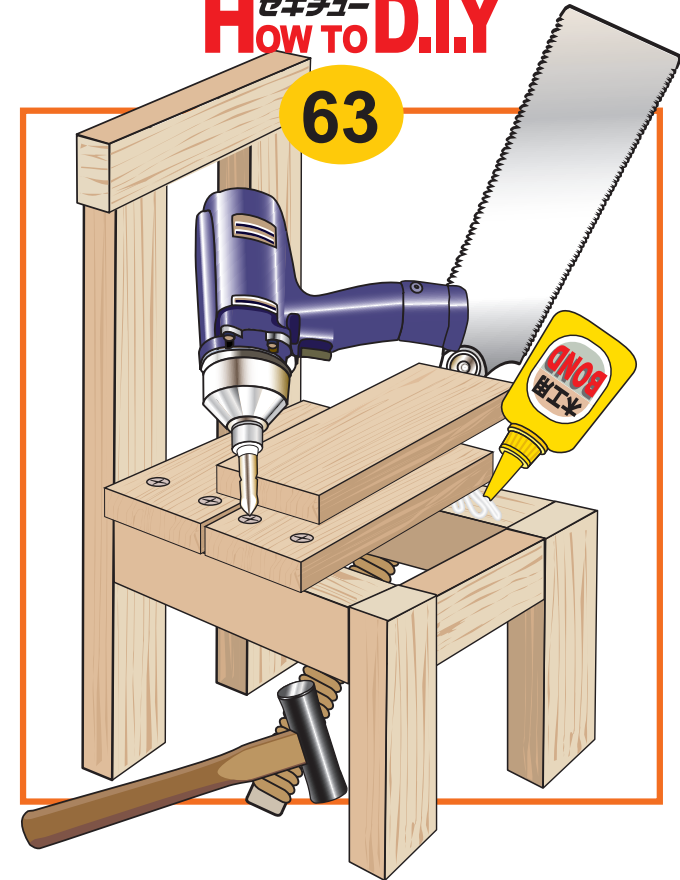
©無断転載は禁止します

木工の基本

自分でやってみよう!

セキチュー
HOW TO D.I.Y

63



夏休みの宿題では必ず出される工作ですが、自分の特徴を出すためには、キットのものより、オリジナルなもののほうが自分をアピールできます。さらに自分で考えて自分で作るという創造的な力が養われます。

ここでは子供たちに限らず、D.I.Y.をやろうと思う人のための木の工作に必要な基本的な知識をまとめてみました。これを元にいろいろなオリジナルなものを製作してください。

Do it Yourself & Save

木工作の基本

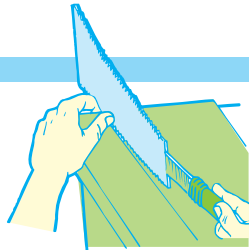
切る

●のこぎりの使い方

・引き初め(利き腕か右手の場合です)
材料の表になる方を上側にします(切り口がきれいに見えます)。左手の親指か人差し指を切断線の上を立てて、のこぎりが線のぎりぎり外側になるようにして、のこぎりを引きます。初めはのこぎりの柄の刃に近い部分を握り、軽くそして小刻みに押したり引いたりし、溝ができると、力を入れて引いてください。

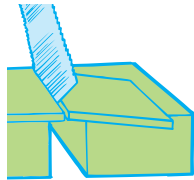
・引き方

押すときは軽く、引くときは強めに動かします。また目はのこぎりの真上にくるようにすると、まっすぐに切れます。(欧米ののこぎりは日本のものとは逆に押すときに力を入れ、引くときは軽く動かします)



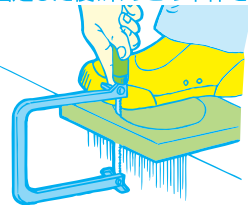
・引き終わり

引き終わりに近くなったら、切り離す板を左手で支えて、切り初めと同じように動かします。



糸のこの使い方

・のこ刃をピンと張りましょう。張りが弱いと、刃が折れたり、きれいな曲線切りができません。刃の一方をネジで固定した後、糸のこの本体を両端から強く押し、幅を少しせばめてからもう一度固定すると刃がしっかりとなります。



・動かし方

垂直に軽く動かしながら線に沿って切っていくきましょう。

測る

●さしがね(曲尺)

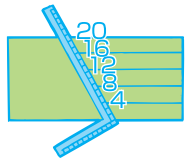
さしがねは万能といってもいい測定のための工具です。



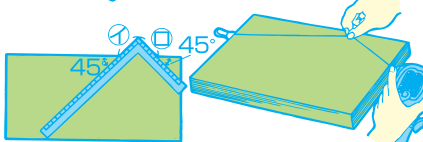
直角に線を引く



直角を出す



材料を等分する

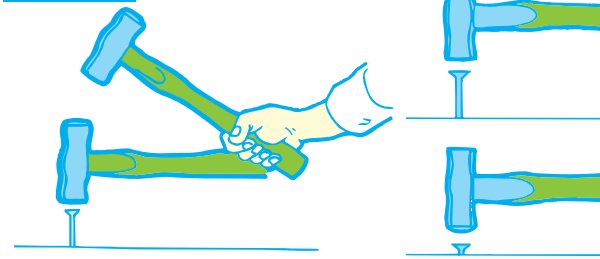


角度を出す
(①=②は45°)

※長くまっすぐな線は墨つぼで出すときれいに引けます。

※45度を正確に出したいときは、直角定規(スコヤ)を使います。

たたく げんのうの使い方



・げんのうは柄の端を軽く持って、手首の円運動でクギを打ちこんでいきます。

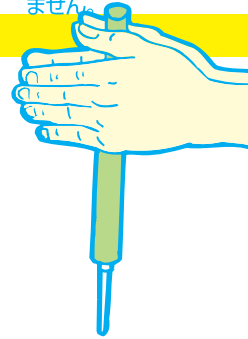
・打ち初めは平らな部分で打っていき、最後に近くなったら、もう片方の少し凸面になっている部分(木殺し)で打ちこみます。そうすると、木にげんのうのたたきキズがあまりつきません。

穴をあける

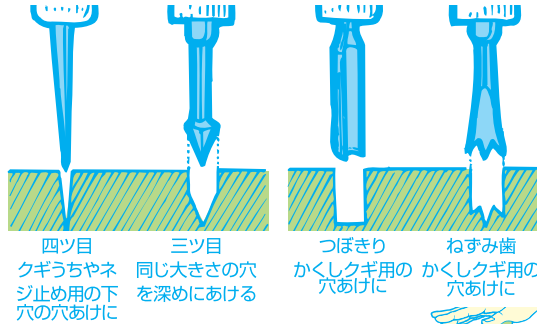
きりの使い方

・持ち方

きりは木材に穴をあける道具で、イラストのように両手できりをはさみ、下へ押し気味にしながら両手を互いに前後させて柄を回転させます。手がすべるようでしたら、ちょっと水で湿らせるとすべりません。これはのこぎりなどにも応用できます。きりは両手で使うので、木材は足やパイプで固定しておくようにしてください。



・きりの種類



四ツ目
クギうちやネジ止め用の下穴の穴あけに

三ツ目
同じ大きさの穴を深めにあける

つぼきり
かくしクギ用の穴あけに

ねずみ歯
かくしクギ用の穴あけに

・つぼきりの使い方

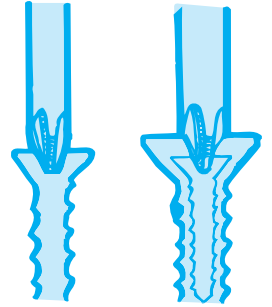
穴あけ位置にきりの先を当て、柄の上をイラストのように手のひらでトンと打ち、きりの歯形がついたら、きりの先をつけたまま回転させ、歯形が円になってからもみ始めて下さい。



締める

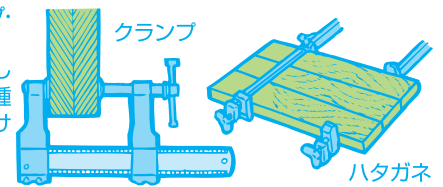
●ドライバー

・必ずネジに合ったドライバーを使いましょう。特にプラスドライバーは、ドライバーにネジをつけて落ちないのが合っているドライバーです。
・木材にネジこむ場合はきりで下穴をあけておくと安定しやすく、スムーズにネジこめます。下穴は木ネジの長さの2分の一ぐらいです。



●はたがね・クランプ・クリップ

木材を強力に接着したいときに、木材の種類に応じて使い分けます。



ハタガネ

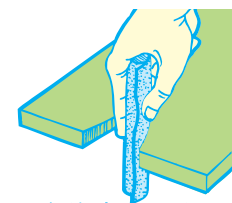
磨く

●サンドペーパー

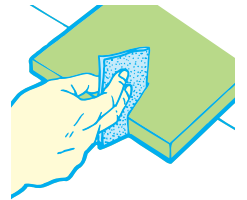
木材の表面をきれいにするもので、ペンを塗るときに必要なものです。粒子の大きさによって、荒削り用から仕上げ用までいろいろなバリエーションがあり、さらに紙、耐水布の3種類の材質のものがあります。木工の場合は布タイプが最適です。(紙製でも大丈夫です)



平面の場合は木片に巻きつけて磨きます。



曲面を磨く場合はサンドペーパーを丸めるか丸棒に巻きつけて磨きます。



小さい木材の場合は木材の方を動かします。くい込んでいる面を磨く場合はサンドペーパーを折って使います。

番号の目安

#60	目がかかり荒いので、角材等の切断面をならすときに、最初に使う
#80	かなな仕上げをしていない木材の面を仕上げるときに、この荒さのものから始める
#180	かなな仕上げをしてある木材の面を磨くときに使う
#250	白木などをサンドペーパーのみで仕上げるときに最後にこれで磨く
#320	木工ではあまり使わないが、特に念入りに仕上げたい場合に使う